

令和 6 年第11回教育委員会定例会次第

開催日時 令和 6 年11月13日（水）午後 2 時から

開催場所 春日井市役所 9 階 教育委員会室

1 議 題

- (1) 議案に対する意見について
- (2) 令和 6 年度全国学力・学習状況調査における春日井市全体の結果について

2 報 告

- (1) 県民の日学校ホリデーに伴う施設の開設について
- (2) 「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方（中間案）」の文教経済委員会における質疑応答について

議題 1 議案に対する意見について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づき、教育委員会の意見を求めるもの。

6 春総第80079号

令和6年11月6日

春日井市教育委員会 様

春日井市長 石 黒 直 樹

議案に対する意見について

令和6年第5回春日井市議会定例会に次の議案の提出を予定しているので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第29条の規定に基づき、貴委員会の意見を求めます。

令和6年度春日井市一般会計補正予算（第11号）（教育に関する事務に係る部分に限る。）

連絡先 総務部総務課 行政担当 下方、松尾

電話(0568)85-6068

令和 6 年度補正予算の概要

＜一 般 会 計＞（第11号）

（単位：千円）

款	内 容 等	金 額
9 教 育 費 55,000	小中学校指導書購入等	55,000
合 計 55,000	財源内訳 繰入金 財政調整基金繰入金 55,000	55,000

議題2 令和6年度全国学力・学習状況調査における春日井市全体の結果について

令和6年4月18日に実施した全国学力・学習状況調査の調査結果について、分析結果を公表するもの。

令和6年度全国学力・学習状況調査における春日井市全体の結果について

春日井市教育委員会

令和6年4月18日（木）に、小学校6年生と中学校3年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査の春日井市の結果の概要についてお知らせします。

なお、この調査の結果は、児童生徒の学力の一部分であることをご承知おきください。また、この調査の詳細は、国立教育政策研究所のウェブサイト「全国学力・学習状況調査」により確認できます。

<https://www.nier.go.jp/kaiatsu/zenkokugakuryoku.html>

1 小学校6年生

(1) 教科の状況

状況を見るにあたって、よくできている内容【○】と努力を要する内容【△】の一部及び今後の指導のポイントを紹介します。

【国語】

国 語	状況	正答率：全国平均と同程度 分 布：上位層がやや少ない
	内容	○話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができる。 ○資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。 ○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる。 △学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。 △文の中における主語と述語との関係を捉えることができる。 △人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。 △日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができる。
	今後の指導のポイント	

- ・漢字を書くことについては、当該学年の前の学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにするとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うようにすることが重要である。
- ・主語と述語との関係について、低学年から繰り返し指導すること、日常的に主語が何かを意識して文章を読んだり書いたりすることが重要である。その際、「～が」、「～は」、「～も」のように主語の表し方は様々にあることや、主語と述語が離れて表されている場合があることに留意して指導することが大切である。
- ・登場人物の人物像を具体的に想像するためには、登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結び付け、それらを基に性格や考え方などを総合して判断することが必要である。また、物語の全体像は、登場人物や場面設定、個々の叙述などを基に、その世界や人物像を豊かに想像することで捉えられる。「何が書かれているか」という内容面だけでなく、「ど

	のように描かれているか」という表現面にも着目して読むことが、物語の全体像を具体的に想像するために重要である。表現の効果を考えると、想像した人物像や全体像と関わらせながら、様々な表現が読み手に与える効果について自分の考えを明らかにしていくことである。感動やユーモアなどを生み出す優れた叙述、暗示性の高い表現、メッセージや題材を強く意識させる表現などに着目しながら読むことが重要である。 ・日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くためには、本などの中の言葉から自分を支える言葉を見付けたり、今までになかった考えを発見したりすることなどによって、読書の意義をより強く実感できるようにすることが大切である。
--	---

【算数】

算 数	状況	正答率：全国平均と同程度 分 布：上位層がやや少ない
	内容	○問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができる。 ○除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解している。 ○除数が小数である場合の除法の計算をすることができる。 ○簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができる。 △直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解している。 △球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができる。 △速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できる。 △折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できる。
	今後の指導のポイント ・円周率を用いて直径の長さから円周の長さを計算によって求めるだけでなく、円周率が円周の長さの直径の長さに対する割合であることを理解できるようにすることが重要である。 ・身の回りの形から図形を捉え、図形を構成する要素を見だし、体積を求めるために必要な情報を判断できるようにすることが重要である。また、立方体の体積は、一辺の長さを測ることによって、$(一辺) \times (一辺) \times (一辺)$ の式で求められることを理解できるようにすることも大切である。 ・異種の二つの量の割合として捉えられる数量の比べ方や表し方について理解し、その数量を求めるとともに、日常生活で出会う様々な問題を解決するために、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を日常生活に生かすことが重要である。速さの学習においては、速さが一定の場合には道のりと時間が比例関係にあることや、速さなど単位量当たりの大きさが平均の考えなどを前提にしていることに、気付けるようにすることが大切である。 ・日常生活の場面のデータをグラフに表し、そのグラフから特徴や傾向を捉え、見いだしたことを表現できるようにすることが重要である。その際、グラフのどの部分を基に、必要な情報を読み取ったかを表現できるようにすることが大切である。	

(2) 学習・生活習慣等の状況

状況調査を見るにあたって、学習・生活習慣等を「生活習慣」「学校・家庭での生活の様子」「自尊意識」「規範意識」「学習の様子」の観点から分析する。

全体の傾向（様子）のよい点【○】と改善が必要な点【△】及び学習・生活習慣等と教科の調査結果との関連について紹介します。

【全体の傾向（様子）】

【生活習慣】

○朝食を毎日食べている。

△毎日、同じくらいの時刻に寝ている。

【学校・家庭での生活の様子】

○普段の生活の中で、幸せな気持ちになることが多い。

△休日に家で1時間以上勉強している。

【自尊意識】

○人の役に立つ人間になりたいと思う。

【規範意識】

○人が困っているときは、進んで助けている。

【学習の様子】

○週3回以上、授業で、PC・タブレットなどのICT機器を使っている。

○学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用して学習することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。また、分からないことがあった時にすぐ調べることができる。

○自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している。

○道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。

△授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる。

△算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしている。

【学習・生活習慣等と教科の調査結果との関連】

- ・朝食を毎日食べていると回答している児童ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝たり起きたりしていると回答している児童ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答している児童ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・平日にテレビゲームをする時間が少ない、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴をする時間が少ないと回答している児童ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている」と回答している児童ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・平日や休日に家で勉強していると回答している児童ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・新聞を読んでいると回答している児童の方が教科の正答率が高くなっている。
- ・「授業でPC・タブレットなどのICT機器をよく使用した」と回答している生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」と回答している児童ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答している児童ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」と回答している児童ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答している児童ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていた」と回答している児童ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの活動に取り組んでいる」と回答している児童ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「国語の授業で、違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理している」と回答している児童ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いている」と回答している児童ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目している」と回答している児童ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えている」と回答している児童ほど、教科の正答率が高くなっている。

2 中学校3年生

(1) 教科の状況

状況を見るにあたって、よくできている内容【○】と努力を要する内容【△】の一部及び今後の指導のポイントを紹介します。

【国語】

国 語	状況	正答率：全国平均と同程度 分 布：上位層がやや多い
	内容	○目的に応じて必要な情報に着目して要約することができる。 ○表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。 ○表現の技法について理解している。 △話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができる。 △文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができる。
	今後の指導のポイント	
	- 話し合いを通じて自分の考えをまとめる際には、何についてどのような目的で話し合っているかといった、目指している到達点を常に意識し、互いの発言を結び付けられるようにすることが重要である。そのためには、話し合いにおけるいずれの段階においても、話題の経過を捉えて話したり聞いたりすることができるように指導することが大切である。また、話し合いの展開に応じて、互いの発言を結び付け、話し合った内容を踏まえて自分の考えをまとめられるように指導することも大切である。 - 図表や写真などを含む説明的な文章を読む際には、示されている図表などが、文章のどの部分と関連しているのかを確認するなどして、書き手の伝えたい内容をより正確に読み取ること、図表などを示すことで文章にどのような効果が生まれているのかを考えることが重要である。	

【数学】

数 学	状況	正答率：全国平均より高い 分 布：上位層がやや多い
	内容	○等式を目的に応じて変形することができる。 ○一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解している。 ○簡単な場合について、確率を求めることができる。 ○複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができる。 △筋道を立てて考え、証明することができる。
	今後の指導のポイント	
	事柄が成り立つことを証明できるようにするためには、証明の方針を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導することが大切である。	

(2) 学習・生活習慣等の状況

状況調査を見るにあたって、学習・生活習慣等を「生活習慣」「学校・家庭での生活の様子」「自尊意識」「規範意識」「学習の様子」の観点から分析する。

全体の傾向（様子）のよい点【○】と改善が必要な点【△】及び学習・生活習慣等と教科の調査結果との関連について紹介します。

【全体の傾向（様子）】

【生活習慣】

○朝食を毎日食べている。

【学校・家庭での生活の様子】

○学校に行くのは楽しいと思う。

○友達関係に満足している。

○普段の生活の中で、幸せな気持ちになることが多い。

△休日に家で1時間以上勉強している。

【自尊意識】

○人の役に立つ人間になりたいと思う。

【規範意識】

○人が困っているときは、進んで助けている。

【学習の様子】

○週3回以上、授業で、PC・タブレットなどのICT機器を使っている。

○学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりすることができる。

○自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している。

△授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる。

△国語の授業で話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解している。

△数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしている。

【学習・生活習慣等と教科の調査結果との関連】

- ・毎日、同じくらいの時刻に寝たり起きたりしていると回答している生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・平日にテレビゲームをする時間が少ない、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴をする時間が少ないと回答している生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答している生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている」と回答している生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・平日や休日に家で勉強していると回答している生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・新聞を読んでいると回答している生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「授業でPC・タブレットなどのICT機器をよく使用した」と回答している生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」と回答している生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答している生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」と回答している生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答している生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていた」と回答している生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる」と回答している生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と回答している生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの活動に取り組んでいる」と回答している生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と回答している生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「国語の授業で話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解している」と回答している生徒ほど、国語の正答率が高くなっている。
- ・「国語の授業で、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている」と回答している生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「国語の授業で、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している」と回答している生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えている」と回答している生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしている」と回答している生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。

春日井市では、生涯に渡って自ら学び続けられる子の育成をめざしています。

学校では、情報を収集・整理し、自分の考えを表現する力を養うために一人一台端末を活用した授業に取り組んでいます。教科の授業や総合的な学習の時間において、ディスカッション等を重ねることで、自己表現力を養っています。

今回の調査では、小・中学校ともに「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」「各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」と回答している児童生徒ほど、教科の正答率が高くなっています。また「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と回答している児童生徒ほど、教科の正答率が高くなっています。

今後も教科横断的な学びや、探究的な学びを通して、課題の解決に向けて自ら学ぶ力を育んでいきます。

また、家で勉強する時間を確保している児童生徒ほど、教科の正答率が高くなっています。自分で時間を管理するとともに、自分の行動について優先順位を決めることができるよう、ご家庭でもお声がけをお願いします。

さらに、「毎日、同じくらいの時刻に起きている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答している児童生徒ほど、教科の正答率が高くなっています。基本的な生活習慣が大切であることを、学校で児童生徒に伝えていきます。ご家庭でもご協力よろしくお願いします。

報告 1 県民の日学校ホリデーに伴う施設の開設について

11月25日(月)の「県民の日学校ホリデー」に、次の施設を臨時開設します。

	施設名	利用可能時間
1	サンフロッグ春日井 ※トレーニング室は休場	10:00～17:00
2	図書館	9:00～20:00
3	交通児童遊園	9:00～18:00 (一部 16:30 まで)
4	グリーンピア春日井	9:00～17:00
5	かすがいげんきっ子センター	9:00～12:00、13:00～18:00 (児童の部屋は 17:00 まで)

報告2 「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方（中間案）」の文教経済
委員会における質疑応答について

「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方（中間案）」の文教経済委員会における質疑応答について

質問事項	質問要旨	回答要旨
1 学校規模が、やや小規模と大規模の対応について	(1) 学校規模が、やや小規模と大規模の対応について、23ページの「(エ) 対応の考え方」に、やや小規模と大規模は、「その推移を見守ることとし、必要に応じて通学区域の変更などを検討します。」とあるが、「必要に応じて」とは、具体的にどのような場合を想定しているのかを問う。	(1) 今後、推移を見守る中で、さらに将来的に児童生徒数が増減し、学校規模の区分が過小規模や小規模もしくは過大規模になることが見込まれる場合や、近隣校の学校規模の検討状況によっては、対応の検討が必要となる場合などを想定しております。
2 パブリックコメントの実施について	(1) パブリックコメントの実施について、広く周知する必要があると考えるが、どのように周知していくのか考えを問う。	(1) パブリックコメントの実施につきましては、広報春日井や市ホームページのほか、児童生徒の保護者には、連絡用アプリ「ホームアンドスクール」により、周知に努めてまいります。
3 学校規模の区分について	(1) 中学2年生と3年生も、仮に35人学級になった場合は、学校規模の区分が変わることになるのかについて問う。	(1) 11ページに記載のとおり、現行の1学級あたりの児童生徒数の基準は、小学1年生から中学1年生までは35人学級で、中学2年生及び3年生は40人学級でございます。学級数につきましては、この基準に基づいて推計しておりますが、基準が変われば、学級数が増え、学校規模の区分も変わる場合があると考えております。
4 過大規模校について	(1) 小野小学校や中部中学校は、過大規模の状態が続くと見込まれているが、その解消について、どのように考えているのかを問う。	(1) 23ページに記載のとおり、過大規模の学校につきましては、通学区域の変更などを検討することとしております。 現在、過大規模である小野小学校及び中部中学校につきましては、校舎の増築による対応として

質問事項	質問要旨	回答要旨
		いるところでございますが、今後、保護者や地域、関係者の皆様とともに議論を積み重ね、将来的な児童生徒数の推移や、学校や地域の実情にあわせて、対応を検討してまいります。
5 児童生徒数の推計について	(1) 児童生徒数の推計において、区画整理等での転入による増加を想定しているのかを問う。	(1) 児童生徒数の推計につきましては、まちづくり推進部建築指導課に申請されている一定規模以上の住宅開発の情報をもとに、転入による増加を見込んでおります。
6 通学方法について	(1) 25ページに、通学距離を今までの「小学校は1.5キロメートル、中学校は2キロメートルまで」を、今後は、「小学校は4キロメートル、中学校は6キロメートルまでを可能とする」とあるが、小学生が4キロメートルを徒歩で通学することは、非常に大変であると考えているが、どのような通学方法を想定しているのかを問う。	(1) 通学距離について、小学校は4キロメートル、中学校は6キロメートルまでを可能とすることにつきましては、自転車やバスでの通学方法も考慮してまいります。具体的な通学方法は、今後の地域の皆様との議論の中で、学校や地域の実情にあわせて、検討を進めてまいります。
	(2) 仮にバスを利用することになった場合、スクールバスの導入なのか、コミュニティバスや路線バスの利用になるのか、具体的なバスの種類を問う。	(2) バスの種類など、通学方法につきましては、今後の議論の中で検討していくものと考えております。